

## 情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年11月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	先月の醤油出荷量は、前年同月に比べ大幅に下回った。18年度の累計でもかなり前年を下回っており、先行きが懸念されている。消費の低迷が依然続いている。
	パン・菓子製造業	前年同月と比べても特に変化は見られない。
繊維・同製品	織物業	一部企業には引合や売上単価に改善の動きが見られるが、全体的には低調している。
	織物業	和装織物業界では、大型小売店の倒産による信用不安等の悪影響が甚大であり、非常に厳しい状況で推移している。
	ねん糸製造業	ストレッチ繊維は機能性に高い評価が得られている。しかもスポーツ衣料から一般衣料へと需要が広がっており、需要も旺盛となっている。
	ニット生地製造業	丸編、経編とも全般的に大過無く推移している。
	その他の織物業	11月度は、昨年11月に比べ5%の売上増となった。10月下旬から11月初旬にかけては、若干順調な売上増加を描いたが、11月下旬には仕事量が急速に落ち込んでしまった。瞬間的には回復傾向を見せるものの、売上が回復しないまま依然として厳しい局面を迎えている。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	原木の入荷量は順調に推移している。ここきて仕事のある業者とない業者の二極化が進んでいる。
	製材業、木製品製造業	11月度の売上は大幅な増加となった。だが、資材価格は引き続き高値基調で先が見えない状態である。合板を筆頭に北欧・北洋材の高等が特に激しい。この影響から長年沈滞していた国産材にも変化が生じてきている。
窯業・土石製品	砕石製造業	11月の組合取扱い出荷量は対前年同月に比べ、全体量では6.2%の増加となった。内訳ではアスファルト合材向けは13%の減少となったものの、生コン向けは10.5%の増加となった。特に金沢地区の生コンは下期に入り好調となっており、全体の出荷量を前年並みに下支えしている。
	陶磁器・同関連製品製造業	4月に申請を行った地域団体商標申請について、現在は保留状態であるので、今後も検討を行い出願を行う予定。
	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、前年同月比104.6%とプラスの出荷量となった。地区状況は、金沢地区が2ヶ月連続でプラスとなったものの、その他の地区ではマイナスで推移した。官公需、民需については、官公需は相変わらず厳しく前年同月比82.1%、民需は好調で131.4%と4ヶ月連続のプラスで推移した。
	粘土かわら製造業	瓦の生産枚数は昨年に比べ増加傾向にある。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	前年同月に比べて、売上や利益率は増加している。だが、生産面では限界が生じてきている。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様、特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	年末を見据えてか、受注量が増加し、生産量が前年対比10%を超える状況となっている。ただ、生産品目等によっては企業間格差が見られる。
	鉄素形材製造業	前年同月に比べ売上高や操業度が低下している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年11月分)

一般機器	繊維機械製造業	建設機械、工作機械、繊維機械、その他の産業機械向けの部品加工はいずれも好調が続いているが、夏頃までのような勢いは無くなっている。大型自動車メーカーの設備投資の延期が色々なところに影響しているのではないかとこの事である。
	プレス、工作機械	今月は平成18年度の中で売上が一番悪く、受注も減少傾向だが、来年2月以降はまたフル生産の予定。その他として、ステンレスが高騰し続けている。今後、価格に転嫁出来なければ収益を圧迫する事になる。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	自動車関連や携帯電話関係の業種は依然好調であるが、公共事業関係は一部停滞気味である。
	機械金属、機械器具の製造	主たる取引先である建設機械・繊維機械・工作機械の各メーカーは好調を維持しており、更なる能力アップを望んでいる。これに呼応して組員各社は保有能力をフルに稼働させている。先行きの不安材料も見当たらず、受注計画の上乗せが策定されているようだ。
その他の製造業	漆器製造業	春先からカタログ販売が増加し、業界の最繁忙期である11月に期待をしていたが、結果は昨年並みと振るわなかった。一部に大型の法人需要が見られたが、各企業の業績はまだら模様であり、依然として全体的に回復とまでは言えない状況にある。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	最近、合繊織物(衣料)の売上や収益が上昇している。理由は、輸出が好調であるからとの事である。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は前年同期とほぼ横ばいで推移している。
	一般機械器具卸売業	石川県の持ち家率は年々減少し、10年前に比べ3割も落ち込んでいる。マンションの増加等の影響が大きい。
小売業	燃料小売業	暖冬で灯油販売は不振。逆に今後の供給面での不安は少ない。販売不振をカバーするため、安値量販店では値引き合戦を行っており、結果として経営の悪化を招いている。
	機械器具小売業	11月は、液晶・PDPテレビが好調で前年の2倍近くの伸びがあった反面、白物家電は低調で全体の伸びは10%増で留まった。また一般家庭のオール電化への動きが高まっており、今後に期待したい。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	景気は回復していると言われてるが、地方の衣料品小売業は未だに景気の回復の実感が無い。季節的には冬物衣料に完全に移行したので、若干ではあるが前年同月を超える事が出来た(対前年同月比102.6%)。
	鮮魚小売業	11月に入って入荷量も平年並みに推移している。11月7日にカニが解禁となるも荒天による影響で入荷量が少なく高値となった。しかし、中旬に入ってからは、大量に入荷され久し振りに活況となった。
	他に分類されない その他の小売業	今月も昨年より旅行者の増加を感じた。前半の三連休が大変良かった。この調子で推移して欲しい。
	百貨店・総合スーパー	11月の売上は予算比93.7%で前年比98.3%と前年割れとなった。前年割れの原因として特招会当日の天候が悪天候であった事から、客足が伸びず、直接売上に結びつかなかった事が原因と考えられる。
	米穀類小売業	米価が上がって利幅も相対的に増える事が販売業者の願うところであるが、年々増加する販売業者の淘汰や寡占化が進んでおり状況は厳しい。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年11月分)

非 製 造 業	商店街	近江町市場	カニの解禁に伴って人出は増えているが、景気の回復を実感する事は出来ない。
		尾張町商店街	金沢駅周辺に大型商業施設がオープンし、しばらく休祭日の人通りが街中より少なくなったような感を覚えた月であった。ただこの大型施設はターゲットを若い世代にしているためか、来館者は多いものの、実際に買い物をしている数は少ないように感じられ、様子見の人々が目立つ感じである。金沢という風土に定着するかどうかは今後の展開次第ではないだろうか。その他の問題として人手不足が深刻化している。大型商業施設が人刈りをしているため、我々一般の商業者が人手を集められないという事態が起こっていることは見逃せない。
	サービス業	旅館、ホテル	11月は昨年同月に比べ、若干宿泊客は増加しているが、12月の予約は昨年比に比べ減少しており、各施設では大変厳しい状況にある。
		旅館、ホテル	宿泊観光客の旅行の楽しみ方が多様化しており、それに対応していかなければならない状況となっている。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比3.1%減、前月比6.7%減となった。新規検査状況は、前年同月比2.2%増、前月比1.9%減となった。
		旅館、ホテル	全体の売上は減少傾向にある。その他として、旅行者の消費志向の多様化が進み、旅行のスタイルが団体旅行から個人旅行へと変わってきている。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比1.1%増となった。内訳として、民間土木は61.9%増、民間建築は11.2%増となり、民間全体では21.7%増で推移した。一方、公共土木は16.2%減、公共建築は61.4%増となり、公共全体では9.8%減で推移した。
		一般土木建築工事業	公共工事が財政難を理由に年々減少しており、このことが競争の激化を招き、安値受注によって利益が大幅に減少し、人件費の抑制や事業縮小を迫られる企業が増加している。
		板金・金物工事業	最近ではリフォーム関係の仕事が増加傾向にあり、大工仕事は減少している。また材料費も値上げとなっており、収益の悪化を招いている。
		管工事業	前年同月に比べて、ガス供給工事件数と給水装置工事件数は増加している。
	運輸業	一般貨物自動車運送業	運賃下落や環境コストの増大により、トラック事業者の経営状態が悪化している。
		一般乗用旅客自動車運送業	公共交通機関の一端を担うタクシー事業者各社の経営状態は、需要低下と過当競争のなか依然として厳しく、このままでは旅客輸送サービスの質の維持が困難との危惧の声が業界内から上がっている。このため、運転者の労働条件の改善や燃料価格の高騰などを理由とした運賃改定の動きが急速に波及している。
		一般貨物自動車運送業	軽油価格の値下げにより収益状況は多少改善されている。仕事量は全体的に増加傾向にあるものの、地域間格差が生じている。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等